

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2021年9月20日

新型コロナワクチンを打つと死亡率が高まるか？ : No !

【松崎雑感】

本日現在日本の新型コロナ接種回数は8千万となっています。ワクチン接種直後に亡くなったという事例が時々報道されます。因果関係はあるのかどうかは、すぐには結論を出すことができません。当面はワクチン接種群の接種直後(例えば7日間)の死亡率が、バックグラウンド死亡率より大きいかどうかで、公衆衛生対策としてのワクチン接種の妥当性を判断するほかありません。

今日の論文は、ざっくり言うと、50歳以上の人々10万人あたりの死亡率は、平時(7日間バックグラウンド死亡率)で100人前後、新型コロナに感染した場合は1000人、ワクチン接種から7日以内に1~20人でした。ワクチン接種の有害影響をマックスに考慮したとしても、接種のメリットはずっと大きいと思います。

新型コロナワクチンを打つと死亡率が高まるか？ : No !

Liu JY (Department of Family Medicine, Taipei Veterans General Hospital, Taipei, Taiwan, ROC.), Chen TJ, Hou MC. **Does COVID-19 vaccination cause excess deaths?** *J Chin Med Assoc.* 2021 Sep 1;84(9):811-812. doi: 10.1097/JCMA.0000000000000580. PMID: 34524211.

台湾は2021年3月22日から新型コロナワクチン接種を開始した。その後3か月で、165万2232名の台湾市民に168万1936回の接種が行われた（接種率は7%）。

接種対象者を長期介護施設入居者や透析患者に広げてから、ワクチン接種後の死亡報告が増えた。2021年6月22日までに、75才以上の人々から144名（男71名、女73名）が、接種後7日以内に死亡した。死亡者の多くは慢性心血管疾患を持っており、もともと背景死亡率が高い人々である。

ワクチン接種と死亡の間には、明らかな因果関係は見られず、単に接種直後に死亡したという時間的関連があるだけだった。

新型コロナによる新規死亡者数は、感染予防対策の徹底により減少中だが、ワクチン接種後の死亡者が増えているため、ワクチン接種がかえって死亡者を増やしているのではないかというメディアの報道で、市民の間に不安が広がった。

米国ではどうなっているか？CDCのワクチン有害イベント報告システムとFDAのデータから、2020年12月から2021年5月までのワクチン接種から7日以内の死亡者数を収集した。CDCのデータベースから人口統計学的指標、CDCのMMWRからワクチン接種率を収集し、性別、年齢層別に10万人あたりの死亡率を算出した。

ワクチン接種から7日以内の死亡率は女性より男性に高く、高年齢層ほど高かったが、2019年の米国における週別の死亡率（バックグラウンド死亡率）よりもはるかに低かった（表1）。

台湾では、ワクチンの3分の1が75才以上の高齢者あるいは病弱な施設入所者に投与されている。

ワクチン投与から7日以内に死亡した75才以上の人々112名をこの年齢層の人々で割ると、10万人あたりの死亡率は19.8となる。

これは米国よりも高率である。しかし、この数字の高低を直接比較することは妥当ではない。台湾は米国よりも平均寿命が長く、台湾と米国のワクチン戦略が異なるからである。

にもかかわらず、台湾のワクチン接種から7日以内の死亡率は対応した年齢群のバックグラウンド死亡率よりもはるかに低い（表1）。

Table 1

新型コロナウイルスワクチン接種から7日以内の死亡率および
台湾、米国におけるバックグラウンド死亡率(性別・年代別)

新型コロナウイルスワクチン接種から7日以内の死亡率(10万人あたり)

	米国				台湾
	50-59 y	60-64 y	65-79 y	80+ y	75+ y
女性	0.80	1.17	2.15	7.44	NA
男性	1.06	2.20	3.44	11.09	NA
合計	0.92	1.65	2.76	8.90	19.83

バックグラウンド死亡率(10万人あたり)

	米国				台湾
	50-59 y	60-64 y	65-79 y	80+ y	75+ y
女性	8.76	15.37	33.76	95.13	108.75
男性	14.52	25.53	50.23	128.17	152.10
合計	11.58	21.33	41.38	109.14	127.39

COVID = coronavirus disease; NA = not available.

新型コロナワクチン接種後の死亡率がバックグラウンド死亡率よりも高いは低いかという問題は、科学的証明が難しい。

これは、ワクチンの種類とワクチン接種対象集団が一樣ではないためである。

ワクチン接種後の死亡は世界各国で報告されているが、その死亡率は新型コロナ感染そのものによる死亡率よりはるかに低い。

ワクチン接種は新型コロナの重症化と死亡を防ぐ最も効果のある対策である。

ワクチン接種率を高めて集団免疫を形成することが、コロナ前の生活を取り戻す最上の対策である。

【松崎コメント】

ワクチン接種から7日以内の死亡をすべてワクチンに原因があると仮定しても、バックグラウンド死亡率より一桁低かった。

ただし、今後の生存期間が短い人々、これは台湾(75才以上)、50才以上(米国)におけるワクチン接種の有無による死亡率の比較である。

余命6か月以内)はワクチン接種から除外されるので、ワクチン接種群のバックグラウンド死亡率は一般人口よりもやや低くなるだろう。

したがって、接種から7日以内の死亡者の50%がワクチン接種に原因があると仮定しても、差し引きで、ワクチン接種による死亡リスクはバックグラウンド死亡リスクより一桁低い。

治療法の進歩により、感染者の死亡率は低下しているが、直近のデータでは、日本の高年齢の人々が新型コロナに感染した場合の死亡率は1%=10万人あたり1000人である。

ワクチン接種後の死亡が50才以上2人前後のアメリカデータと比較すると、ワクチンを受けた場合のメリットがはるかに大きいと言える。もちろんワクチン接種の可否を判断する場合、今後3~6か月以内に死亡する可能性のある人々は対象から除外することも考慮する必要がある。

